

# は し が き

2010年の世界経済は、国によりペースの違いは見られたものの、2009年に大幅に落ち込んだ状態から穏やかな回復基調を維持したといわれています。しかしながら、先進諸国においてはプラス成長を続けながらも失業率の大きな改善はみられず、高止まったままの状態にあり、かつてのように景気回復が雇用情勢の改善にダイレクトに繋がりにくくなっています。現在の雇用政策の難しさの1つはこの点にあるようです。

一方で、高齢化は先進国を中心に確実に進行しており、近い将来の労働力不足が懸念されています。こうした中で非正規雇用が世界中で拡大傾向にあり、加えて日本においては円高が進行し雇用問題に新たな課題を生じさせています。

こうした世界の経済情勢、雇用情勢を踏まえ、本書はますます政策課題の共通化が進んでいる労働問題、雇用問題における日本と諸外国の実態について、分かりやすく理解できるように編集した「国際比較統計集」です。

本書は年に1度刊行し、すでに10余年を経ています。この間、OECD（経済協力開発機構）やILO（国際労働機関）など国際機関を中心とした努力が続けられ、各国の労働統計は精緻な国際比較が可能のように一段と整備が進められています。本書を編集するに当たっては、こうした成果を可能な限り反映させるべく努めていますが、まだ不十分な点があるかと思います。今後とも一層の改善に努めてまいりますので、利用者の皆様からご意見、ご批判をいただければ幸甚に存じます。

本書が日本の労働問題、労働政策に関する理解の一助となれば幸いです。

平成23年3月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
国際研究部長 坂井 澄雄